漢詩鑑賞　令和六年七月　　　　　　　　　　　　　　　玉井幸久

　　酬王摩詰過林亭　　　のにるにゆ

　窮巷空林常閉關　　　　にをざし

　悠悠獨臥與前山　　　りとにす

　今朝忽枉嵆生駕　　ちのをげられ

　倒屣開門遙解顏　　をにしをいてかにをく

【通釈】

　起句　むさくるしい小路のひっそりとした林の中、私の住居はいつも門を閉じたままで、

　承句　はるかに世間から離れて、独りで前山を友にして隠者暮らしをしているの

　　　　　だが。

　転句　今朝は、かのさんのような皆様の不意のご来臨とあって、

　結句　あたふたと履物をさかしまにつっかけて門を開き、遠くに皆様の姿を見てうれしくてにっこりしました。

【語釈】

　王摩詰…王維のこと。摩詰は王維の。　林亭…林の中のあずまや。林中の別荘。

　窮巷…むさくるしいちまた。行き詰まつた小路。

　空林…①人里離れた林。のない林。　　②木の葉の落ちつくした林

　閉關…門を閉じて客をことわる。身を隠す。

　嵆生駕…晉の（竹林の七賢の一人）が友人のに会いたくなると、すぐに車

　　　　　　を命じて会いに行った故事をふまえる。

　　　　　は人の来訪をいう。敬語。枉駕光臨。

　倒屣…慌てて履物を逆さにはく。急いで出て行き心から人を歓迎することにいう。

　　　　〔魏志、王粲傳〕蔡邕才學顯著、貴重朝廷、常車騎塡巷、賓客盈坐、聞粲在門、

　　　　　　　　倒屣迎之……。

　解顔…顔色をやわらげる。にっこりする。

【押韻】

　平声　刪韻。關、山、顏、

【解説】

　崔　興宗（？―？）は盛唐の人。終南山中に隠棲し、王維・裴迪等と親交した。

　この詩は、王維が親友の・・弟のの四人で崔興宗の山荘を訪れたの

　を迎えた時の作。崔興宗自身の隠棲の生活ぶりや、親友を迎えた喜びを素朴に詠

　じたほほえましい作品です。

　なおこの時、訪問者四人全てが詩を贈っていますが、その中の王維の詩を左に掲げ

　ます。

　　與盧員外象過崔處士興宗林亭

　　　　　　　　　　　　　　　とがにぎる

　綠樹重陰蓋四隣　　　をう

　靑苔日厚自無塵　　にくしてからし

　科頭箕踞長松下　　　すの

　白眼看他世上人　　にしてるのの

　　　科頭…冠や頭巾をかぶらないむき出しの頭。

　　　箕踞…両足を投げ出してあぐらをかいてすわる。

　　　長松…隱逸の象徴。

　　　白眼…冷淡な、軽蔑する目つき。〔晉書、阮籍傳〕能為靑白眼、見禮俗之士、以

　　　　　　　　白眼對之。

　　　世上人…世俗の人。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以上